

2023年12月 千葉公園「自然観察会のお知らせ」

日時：2023年12月9日（土）10時00分～12時00分（120分）

会場：千葉公園 〒260-0045 千葉市中央区弁天3-

集合：蓮華亭テラス：10:00

内容：初冬の植物・昆虫・水鳥の観察会・クリスマスの植物

①モミ（まつ科）

クリスマスツリーに利用される樹木がモミの木 ①

②ヒイラギモチ（もちのき科）

クリスマス飾りにトゲのある四角い青い葉と赤い実がヒイラギモチだよ

③ナンキンハゼ（とうだいぐさ科）

美しく紅葉する葉に白い木の実がついているよ。実はいくつある？

④ネリネ（ひがんばんな科）

千葉公園の南入口の花壇に咲くピンクの花ネリネが目立ちます

⑤ランタナ（くまつづら科）

花の少ないこの季節に色とりどりの花を咲かせ、藍色の実もついています

⑥綿打池のカモメ2種「ユリカモメ・セグロカモメ」（かもめ科）

シベリアから飛来した2種類のカモメが綿打池で見られます

持ち物：自然観察ができる服装と靴・タオル・飲み物・おやつ・図鑑（植物・昆虫・野鳥など）

防寒具・カメラ・双眼鏡・敷物・帽子・雨具・筆記具・虫眼鏡・採集袋・水筒など

お話し：亀井 尊（日本自然保護協会・自然観察指導員）

安全対策：1. ゆっくり千葉公園内を歩いて自然に親しみます。

2. マスクの着用と水分補給を忘れないこと！

3. 植物採集、昆虫採集はできません。

4. 植物のトゲや毒をもつ昆虫には注意しましょう。

時間配分

10:00～10:10 蓮華亭にて挨拶・資料配布・今月の観察目標 【ツワブキの花にコムスジ】

10:15～11:45 コース 遊び：段ボールを使って斜面を滑降

綿打池を時計回りで移動し展望台、市民プール近くまで行きます。

①12月に咲く花の観察

②クリスマスに関連する植物観察

③花に集まる昆虫をさがそう

④野鳥・水鳥の観察

11:50～12:00 今日の観察会を振り返って。 来月の予定 1月13日（土）10:00～12:00

《観察のポイント》

1. クリスマスツリーに利用する樹木は「モミ」の木が一般的です。実は上に向かってついています。葉の先端は2つに分かれています。欧州では実が下に向くドイツトウヒが利用されます。
2. クリスマス飾りは緑のトゲのある葉に赤い実の植物が利用されます。この植物はもちのき科のヒイラギモチです。葉は互生で5つのトゲが見られます。ヒイラギはもくせい科植物で対生。
3. ナンキンハゼもクリスマスに似合う樹木。紅葉が美しく、白い実が雪を想像させるようです。街路樹として美浜区の海岸部で見られます。中国原産で蠟の原材料として利用されました。
4. 千葉公園の南側入り口には「ようこそ千葉公園へ」の看板が見られます。そこには四季おりおりの花が植えられています。12月はピンク色のネリネが皆さんを暖かく迎えてくれます。
5. ランタナの花はカラフルで、色が白・黄・紫・オレンジ・ピンクと変化を楽しむことができるので「七変化」とも呼ばれています。実ははじめは緑色で徐々に藍色に変化していきます。
6. 初冬の綿打池ではシベリアから飛来した水鳥が見られます。キンクロハジロ、ユリカモメ、セグロカモメなどです。留鳥のアオサギやダイサギ、コサギ、カワウも一緒に観察しましょう。

主催：NPO 法人 ちばサイエンスの会 連絡先 080(3503)6059（亀井）

千葉公園の自然（花・草・鳥・昆虫など）に親しむ

太陽の陽ざしは緩やかに傾いて木々の影を地上に長く落としています。

綿打池にはシベリアから渡ってきた水鳥が羽を休めている風景は実にのどかで、時間の経過をわすれてしまいそうです。静まり返った初冬の池面を突然「ピリリッ」と囀りながらコバルトブルーの鳥が水面ぎりぎりに飛んでいきます。カワセミです。ボートは11月で終了し、静かになった綿打池は安全に過ごせる環境が戻って来たようです。カワセミが千葉公園で観察できる環境は素晴らしいことですが、近年は池の水は青い藻（アオミドロ）で覆われて見るからに汚い印象を与えます。風下側の池の端にはビニール袋も浮き沈みしている状況の中でも、市民はボートに乗って綿打池から眺めることのできる紅葉をめっていました。木々が伐採され、キッチンカーが入り込んで経済活動を優先する政策に環境保護を訴えても無意味なような気がします。ネオン輝く初冬の公園にて。

《12月の自然観察》

1. モミとカヤ（まつ科）

クリスマスツリーに利用される木を「モミ」だという国は日本やアメリカ、南欧などのようです。北欧などではドイツウヒが利用されます。どちらもマツ科の植物ですが、マツボックリが上に向かって伸びるのがモミ、逆に下に向かって延びるのがドイツウヒです。千葉公園のモミの枝をとって葉の付き方などをカヤの木と比べてみましょう。葉の先端がどのようになっていますか？

さて、クリスマスが近づくと思い出すことがあります。高校2年生の英語の授業でモミの木の歌をドイツ語で学び合唱したことです。担当の先生は黒板にドイツ語の歌詞を書き、読み方と意味を丁寧に教えてくれました。忘れもせず今でも口ずさむことができます。

Tannenbaum（モミの木）

O Tannenbaum, O Tannenbaum

Wie true sind deine Blatter

Du grunst nicht nur zur Sommerzeit

Nein auch im Winter wenn es schneit

O Tannenbaum, O Tannenbaum

Wie grun sind deine Blatter!

おお、モミの木よ、おお、モミの木よ

そなたの葉は なんと変わらず

あり続けることか 夏場だけではでなく

雪の降る冬でも 青々としている

おお、モミの木よ おお、モミの木よ

そなたの葉は なんと青々としていることか！



【モミの木の葉】



【モミの木の実】



【ドイツウヒの実】



【カヤノキの葉と比較】

2. ヒイラギモチ（もちのき科） セイヨウヒイラギ（もちのき科）はクリスマスホーリーと呼ばれています。そうすると、クリスマスのヒイラギには誤解が生ずることが多いようです。

日本のヒイラギはもくせい科

- ・もくせい科の特徴：葉が対生・葉にトゲあり、老木となるとトゲがなくなり丸くなります。冬季に白い花が咲きます。

西洋のヒイラギはもちのき科

- ・もちのき科の特徴：葉が互生・葉にトゲがある。北欧では唯一の常緑広葉樹で冬至の儀式に使われる。赤い実をつけるので、クリスマス飾りに使われます。

「ヒイラギモチ」や「セイヨウヒイラギ」はもちのき科の植物で、緑の葉と赤い実をつけるのでクリスマスリースに使われます。千葉公園南口入り口花壇にネリネと一緒にヒイラギモチの四角い青い葉が見られます。葉は互生し、四角形で5つのトゲに赤い実をつけます。



【ヒイラギモチの花と実】【四角い葉と5つのトゲ】【ヒイラギのトゲの葉】【老木ヒイラギの葉と花】

3. ナンキンハゼ (とうだいぐさ科)

夏の緑陰と秋の紅葉がきれいなので、街路樹や公園樹として利用されています。実は秋に熟すと割れて、白いロウ質に包まれた3個の種子が現れます。この種子はロウや油を採取するのに利用されますが有毒です。名前の由来は原産が中国であることとロウが取れるハゼノキから命名されました。この実をついばむ野鳥を調べてみるとムクドリなどが食べていました。また若葉区の千城台駅周辺の街路樹を調べてみるとナンキンハゼやモミジバフウ、エンジュなどが植栽されていました。



【ナンキンハゼの実】

4. ネリネ (ひがんばん科)

千葉公園の南入口には「ようこそ千葉公園へ」と可愛い文字で書かれた丸い表示板があります。そこには季節に応じた花が植えられ、千葉駅から歩いてきた人たちを暖かく迎えてくれます。花の少ない冬季であっても、ネリネをはじめパンジー、ハボタン、ストックなどが花壇の中で見られるとホッとします。そしてクリスマスの木であるヒイラギモチの四角い葉と赤い実がそばで見られます。冬の寒い季節であっても、寒さに強い花が咲いていますよ。どんな花が咲いているのか調べてみましょう。例えばアヤメによく似たカンザキアヤメが咲いていたり、黄色い花をつけるユリオプスデージーもきれいです。



【千葉公園南側の入口の看板】

5. ランタナ (くまつづら科)

近年、温暖化の影響をうけてあちらこちらでランタナの花を見る機会が増えました。開花期間が5~12月頃までと長く、花壇の中で色とりどりに変化していくのですぐに目につきます。中南米が原産の常緑小低木で鑑賞用に栽培され、鮮やかな色を変化させるために和名では「七変化」と呼ばれています。花言葉は小さな花が集まって咲くことから、「協力や合意」。右の写真に藍色のつぶつぶの実を載せてありますが有毒です。



【七変化とも呼ばれるランタナ】

6. ユリカモメ (かもめ科)

冬の渡り鳥としてユリカモメはほぼ全国で見られます。10月頃にカムチャッカ半島から渡ってきて、翌年の4月頃に帰っていきます。全長40cmとカモメの仲間としては小型ですが、ひとまわり大きなハシブトガラスを追い払うこともあるほど、かなり激しい気性の持ち主です。大人の個体は、朱色のくちばしと足を持ち、尾羽はほぼ純白です。ユリカモメの英名は「ブラックヘッドドガル」つまり「黒い頭のカモメ」を意味します。白い頭から想像できませんが、これは冬の姿で夏になるとまるでカラスの仲間のように頭が黒くなるのです。日本でも旅立つ直前の4月頃、白い頭のものに混じって黒い頭のものが見られます。知らない人はきっと二種類のカモメがいると思ってしまいうでしょうね。



【冬季のユリカモメ - 等間隔に並ぶユリカモメ】

《12月》 千葉公園の自然風景（花・草・鳥・昆虫など）

【①】モミ



①モミの木はドイツ語でタンネンバウムといい常緑で緑濃い生命力にあふれた樹木です。

【③】ナンキンハゼの紅葉と白い実



③この時期に紅葉と白い実を楽しめる樹木がナンキンハゼです。白い実には3つあるよ。

【⑤】ランタナ



⑤ランタナの花が咲いているだけで嬉しくなります。「七変化」という和名に納得ですね。

【②】ヒイラギモチの葉と実



②クリスマスリースとしてヒイラギモチの葉と実は緑と赤のコントラストが象徴的です。

【④】ピンクのネリネ



④冬季でも濃いピンクの花を咲かせるネリネ。手前にヒイラギモチの四角いトゲの葉が。

【⑥】綿打池が冬鳥で賑わいます



⑥綿打池の上空をユリカモメが飛び、杭の上にセグロカモメやダイサギもいますよ。